

東京大学大学院人文社会系研究科附属 北海文化研究常呂実習施設 平成 24 (2012) 年度の活動記録

(1) 活動の概要

平成 24 (2012) 年度における本施設の主要な動向としては、常呂実習施設が博物館法に規定されている博物館相当施設に指定されたことがあげられる。指定に至る経緯は以下のとおりである。平成 23 年度に学芸員養成課程の必修単位が改正されたことなどによって、博物館学実習を開講している常呂実習施設においても改正課程の指針に沿った体制作りが望ましいとして、文学部に設置された「改正学芸員ワーキンググループ」より、博物館相当施設への指定申請の打診があった。これを受けて実習施設及び実習施設運営委員会では平成 22 年度より申請の準備を進め、文科省や本部法務部などの指導協力も得て平成 24 年 10 月 17 日に正式に文科省に申請し、平成 25 年 3 月 15 日付で「東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設」として博物館相当施設の指定を受けた。

以下、項目別に平成 24 (2012) 年度における本施設の活動の概要を記す。

研究活動に関しては以下の研究助成を受けた。熊木が研究代表者となったのは、科学研究費補助金基盤研究 (B)「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度を予定) である。また、國木田が研究代表者となって科学研究費補助金若手研究 (B)「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(平成 23 (2011) 年度～平成 26 (2014) 年度) の助成を受けた。ほかに考古学研究室の大貫静夫教授を代表とする科学研究費基盤研究 (A)「環日本海北回廊の考古学的研究」(平成 23 (2011) 年度～平成 27 (2015) 年度を予定) に熊木・國木田が連携研究者として加わった。これらの課題の研究計画を軸として北海道・東京・ハバロフスクなどで調査研究を実施した。

ほかに、科学研究費補助金基盤研究 (A)「黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容」(研究代表者:佐藤宏之 東京大学教授、平成 21 (2009) 年度～平成 26 (2014) 年度を予定) に施設として協力し、國木田が北見市吉井沢遺跡の発掘調査に参加するとともに、常呂実習施設研究報告第 10 集として研究成果中間報告書『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容 (I)』(2012 年) を刊行した。

夏の発掘調査実習である「野外考古学Ⅱ」では、平成 22 (2010) 年度より継続調査中の北見市大島 2 遺跡について発掘調査を実施した。本年度も本学の学生・大学院生に加えて、北京大学の徐天進教授と大学院生 5 名が参加している。大島 2 遺跡は来年度以降も調査を継続する予定である。

博物館学実習 A では実習課題として常呂資料陳列館の企画展を制作しているが、その成果である第 2 回の企画展「新着資料展 トコロチャシ跡遺跡のオホーツク文化」を、平成 24 年 11 月から 12 月にかけて開催している。ほかにも同実習 A では、北見市が管轄する「ところ埋蔵文化財センター」で展示を予定している動物剥製資料の展示用プレートを作成するなど、これまでと同様に地域と連携したプログラムを実施している。

また、新たな広報活動として本年 5 月に当施設の Website を開設し、インターネットでの情報の発信

も始めている (<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>)。

(2) 実習

博物館学実習 A

開講期間	平成 24 年 7 月 21 日～7 月 30 日 (7 月 31 日解散)
実習内容	常呂資料陳列館第 2 回企画展「新着資料展 トコロチャシ跡遺跡のオホーツク文化」制作・資料陳列館展示替え・ところ埋蔵文化財センター 動物剥製資料の展示用プレート作成実習・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 7 名・大学院生 1 名・TA (大学院生) 1 名

野外考古学Ⅱ

開講期間	平成 24 年 8 月 20 日～9 月 4 日
調査遺跡	北見市大島 2 遺跡 1 号竪穴及び 2 号竪穴発掘調査
受講者等	学部生 5 名・大学院生 7 名 (TA を含む)・当施設教員 2 名・考古学研究室教員 3 名・北京大学教員 1 名・北京大学大学院生 5 名・北見市教育委員会 2 名・その他研究者等 3 名・発掘体験参加者 5 名

博物館学実習 B

開講期間	平成 24 年 9 月 5 日～9 月 13 日 (9 月 14 日解散)
実習内容	資料陳列館展示替え・考古資料整理の方法・近隣の博物館巡検など
受講者等	学部生 5 名・大学院生 (TA を含む) 7 名

(3) 調査研究活動

①研究助成金 (下線は当施設教員、以下同じ)

(当施設教員が代表者・分担者となった課題)

平成 24 年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) (平成 21～24 年度)

「ユーラシア北東部における後期旧石器時代人の適応行動に関する総合的研究」

(課題番号：21251009)

研究代表者：佐藤孝雄 研究分担者：吉田邦夫、加藤博文、増田隆一、石田肇、鈴木建治、國木田大

平成 24 年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) (平成 23～27 年度を予定)

「擦文文化期における環オホーツク海地域の交流と社会変動」(課題番号：23320166)

研究代表者：熊木俊朗 研究分担者：大貫静夫 連携研究者：佐藤宏之、國木田大

平成 24 年度 科学研究費補助金 若手研究 (B) (平成 23～26 年度を予定)

「環日本海地域における文化集団の食性変遷に関する研究」(課題番号：23720379)

研究代表者：國木田大

平成 24 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (B) (平成 22～25 年度を予定)

「完新世の気候変動と縄文文化の変化」(課題番号：22320162)

研究代表者：安齋正人 研究分担者：福田正宏、國木田大

(当施設教員が連携研究者等で協力した課題)

平成 24 年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) (平成 21～26 年度を予定)

「黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容」
(課題番号：21242026)

研究代表者：佐藤宏之 研究分担者：長崎潤一 (國木田大が研究協力者で参加)

平成 24 年度 科学研究費補助金 基盤研究(A) (平成 23～27 年度を予定)

「環日本海北回廊の考古学的研究」(課題番号：23251014)

研究代表者：大貫静夫 連携研究者：佐藤宏之、熊木俊朗、國木田大、吉田邦夫、福田正宏

平成 24 年度 国立歴史民俗博物館共同研究 (平成 23～25 年度を予定)

「柳田國男収集考古資料の研究」

研究代表者：設楽博己 副代表者：工藤雄一郎、共同研究員：熊木俊朗、高瀬克範、福田正宏、
山田康弘、和田 健、小池淳一、松田睦彦

平成 24 年度 財団法人高梨学術奨励基金

「サハリンにおける石刃鎌石器群の年代と石器技術について—スラブナヤ 4 遺跡・プガチョボ
1 遺跡の研究—」

研究代表者：森先一貴 研究協力者：國木田大

②主な調査

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 ウディリ湖遺跡群 発掘調査 (ハバロフスク州国立極東博
物館との共同調査)

調査期間：平成 24 年 7 月 31 日～8 月 17 日

参加者 (日本側)：熊木俊朗、國木田大、福田正宏、尾田識好、夏木大吾、大澤正吾

北見市大島 2 遺跡 発掘調査

調査期間等：前掲 (野外考古学Ⅱの項) のとおり

北見市吉井沢遺跡の発掘調査および出土遺物整理作業

調査期間：平成 24 年 10 月 17 日～11 月 4 日、平成 25 年 2 月 22 日～3 月 13 日

参加者：佐藤宏之、山田 哲、國木田大、尾田識好、役重みゆき、夏木大吾、高鹿哲大、増子
義彬

ロシア連邦サハリン州 サハリン国立大学資料調査

調査期間：平成 24 年 12 月 17 日～22 日

参加者 (日本側)：大貫静夫、佐藤宏之、福田正宏、國木田大、森先一貴

ロシア連邦ハバロフスク地方ウリチ地区 ウディリ湖遺跡群 遺物整理作業 (於：ハバロフスク州極
東国立博物館)

調査期間：平成 25 年 1 月 21 日～28 日

参加者（日本側）：熊木俊朗、國木田大、福田正宏、森先一貴、大澤正吾

③教員による発表論文等

（熊木関連分）

・著書・論文・調査報告等

2013年3月 熊木俊朗「北海道東北部の縄文文化とサハリン・北海道」『Arctic Circle』86、(財)北方文化振興協会、4-9頁。

・口頭発表（レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある）

2012年5月 佐藤宏之・I.Shevkomud・大貫静夫・森先一貴・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・S.Kosityna・M.Gorshkov、E.Bochkareva・尾田識好・夏木大吾・大澤正吾・内田和典・Yu. A. Mochanov「アムール下流域コンドン1遺跡の調査 ―更新世／完新世移行期の石器群―」日本考古学協会編『日本考古学協会第78回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、74-75頁、立正大学。

2012年7月 熊木俊朗「サハリンの考古学調査研究史 ―幕末から1990年代まで―」国立歴史民俗博物館共同研究『柳田國男収集考古資料の研究』第3回研究会、成城大学民俗学研究所。

2013年2月 大澤正吾、I.Shevkomud・福田正宏・大貫静夫・熊木俊朗・國木田大・佐藤宏之・尾田識好・夏木大吾・M.Gorshkov、E.Bochkareva・内田和典・森先一貴「ウディリ湖遺跡群の考古学的調査（2012年度）」『第14回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、5-8頁、石川県立歴史博物館。

2013年2月 熊木俊朗・國木田大・山田哲「2012年度北海道北見市大島2遺跡発掘調査報告」『第14回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、21-24頁、石川県立歴史博物館。

（國木田関連分）

・著書・論文・調査報告等

2012年7月 國木田大・大坂拓・吉田邦夫「第6節 放射性炭素年代測定」『江豚沢I』、江豚沢遺跡調査グループ（高瀬克範編）、193-214頁。

2012年9月 國木田大「遺跡における層序の年代決定」『考古学ジャーナル』No.632、ニューサイエンス社、15-19頁。

2012年11月 國木田大「縄文時代におけるクッキー状炭化物の研究II」『高梨学術奨励基金年報 平成23年度研究成果概要報告』、財団法人高梨学術奨励基金、82-89頁。

・口頭発表（レジメや報告書が印刷されているものはそれを記してある）

2012年7月 KUNIKITA D, SHEVKOMUD I, YOSHIDA K, ONUKI S, YAMAHARA T, MATSUZAKI H “Dating and analyzing food habits in the Early Neolithic period in Northeast Asia”. 21st International Radiocarbon Conference, 438, Paris, France.

- 2012年7月 YOSHIDA K, KUNIKITA D, MIYAZAKI Y, MATSUZAKI H “Dating and stable isotope analysis of charred residues on the Incipient pottery in the Jomon period”. 21st International Radiocarbon Conference, 447, Paris, France.
- 2012年5月 佐藤宏之・I.Shevkomud・大貫静夫・森先一貴・福田正宏・熊木俊朗・國木田大・S.Koshityna・M.Gorshkov・E.Bochkareva・尾田識好・夏木大吾・大澤正吾・内田和典・Yu.A.Mochanov 「アムール下流域コンドン1遺跡の調査Ⅰ 更新世/完新世移行期の石器群Ⅰ」『日本考古学協会第78回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、74-75頁、立正大学。
- 2012年5月 阿部昭典・國木田大・吉田邦夫「縄文時代中期末葉の注口付浅鉢の付着物の自然科学分析」『日本考古学協会第78回総会 研究発表要旨』日本考古学協会、188-189頁、立正大学。
- 2012年6月 國木田大・大貫静夫・Igor Shevkomud・山原敏朗・吉田邦夫・松崎浩之「アムール川流域および北海道における初期新石器時代の年代研究と食性分析」『日本文化財科学会第29回大会 研究発表要旨集』日本文化財科学会29回大会事務局、38-39頁、京都大学。
- 2012年6月 國木田大・吉田邦夫「炭素・窒素同位体分析を用いたクッキー状炭化物の由来解明と年代測定」『日本文化財科学会第29回大会 研究発表要旨集』日本文化財科学会29回大会事務局、164-165頁、京都大学。
- 2012年6月 中村耕作・國木田大「クッキー状・パン状炭化物の炭素・窒素同位体分析とその出土状況」『長野県考古学会50周年記念プレシンポジウム 縄文時代中期の植物利用を探る 予稿集』長野県考古学会縄文中期部会、56-69頁、岡谷市イルフプラザ・カルチャーセンター。
- 2012年7月 國木田大「縄文時代中・後期の環境変動とトチノキ利用の変遷」『東北地方における中期/後期変動期 4.3ka イベントに関する考古学現象① 予稿集』東北芸術工科大学東北文化研究センター、85-94頁、東北芸術工科大学。
- 2012年10月 國木田大・阿部昭典・吉田邦夫・松崎浩之「三十稲場式土器の年代と食性分析」『三十稲場式土器文化の世界Ⅰ 4.3Ka イベントに関する考古学現象②Ⅰ 予稿集』新潟県・津南町教育委員会・信濃川火焰街道連携協議会、69-78頁、マウンテンパーク津南。
- 2012年12月 山崎真治・藤田祐樹・片桐千亜紀・國木田大・松浦秀治・諏訪元・大城逸朗「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査（2009～2011年）—沖縄諸島における新たな更新世人類遺跡—」『Anthropological Science (Japanese Series)』120(2)、日本人類学会、121-134頁。
- 2013年2月 大澤正吾・I.シェフコムード・福田正宏・大貫静夫・熊木俊朗・國木田大・佐藤宏之・尾田識好・夏木大吾・M.ゴルシュコフ・E.ボチカレバ・内田和典・森先一貴「ウディリ湖遺跡群の考古学的調査（2012年度）」『第14回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、5-8頁、石川県立歴史博物館。
- 2013年2月 熊木俊朗・國木田大・山田哲「2012年度北海道北見市大島2遺跡発掘調査報告」『第14回北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会、21-24頁、石川県立歴史博物館。
- 2013年3月 辻圭子・國木田大「附一御所野遺跡Ⅳ区 FJ46-01 住の炉におけるトチノキ炭化種実の年代」『御所野遺跡Ⅳ』、一戸町教育委員会、124頁。

④当施設発行の刊行物

2012年10月 佐藤宏之編『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容（Ⅰ）』常呂実習施設研究報告第10集、177頁。

（４）教育普及活動

①遺跡発掘体験講座

主催	東京大学大学院人文社会系研究科附属常呂実習施設・北見市教育委員会
開講日時	平成24年8月25日 10:00～12:00
プログラム等	①遺跡の概要説明と見学 大島遺跡群 ②遺跡発掘体験 大島2遺跡
講師	熊木俊朗・山田 哲（北見市教育委員会）
参加者	5名

②第16回文学部公開講座

主催	東京大学文学部・北見市・北見市教育委員会
開講日時	平成24年10月5日（①13:30～14:40、②18:30～21:00）
プログラム等	①常呂高校特別講座（共催：常呂高等学校、会場：常呂高等学校体育館） 「時間の永遠 –時のあいだを生きる、時を超えて考える」（講師：熊野純彦 東京大学大学院人文社会系研究科教授） ②常呂公開講座（会場：常呂町公民館） 第1講「仏教の目指したもの –心を見つめる–」（講師：箕輪 顕量 東京大学大学院人文社会系研究科教授） 第2講「論語読みは論語をどう読むか」（講師：小島 毅 東京大学大学院人文社会系研究科教授）
東大関係出席者：	熊野純彦・箕輪顕量・小島毅・大貫静夫（人文社会系研究科教授）・熊木俊朗・國木田大・貝田綾子（文学部事務長）・ほか東京大学職員3名

③企画展

テーマ	「新着資料展 トコロチャシ跡遺跡のオホーツク文化」
会期	平成24年11月11日～平成24年12月24日
会場	常呂資料陳列館 3F 企画展示室
協力	網走市教育委員会、北見市教育委員会、常呂町郷土研究同好会
展示概要	東京大学考古学研究室・常呂実習施設が1998年～2005年にかけて発掘調

査を行ったオホーツク文化の集落遺跡「トコロチャシ跡遺跡」の調査成果について、出土した土器、石器、骨角器、金属器、木製品などとともに紹介。参考資料として網走市モヨロ貝塚の出土資料も展示。

④広報活動

常呂実習施設・常呂資料陳列館 Website の公開、更新（平成 24 年 5 月～随時）

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/index.html>

⑤非常勤講師・委員委嘱等

（熊木関連分）

北見市文化財審議委員会委員（平成 22 年 3 月 5 日～平成 26 年 3 月 4 日）

国立歴史民俗博物館共同研究員（平成 24 年度）

日本赤十字北海道看護大学 非常勤講師（平成 24 年 4 月～9 月）

北見市常呂自治区社会教育推進会議委員（平成 24 年度）

日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員（平成 24 年度～平成 25 年度）

北見市史編集委員会委員（平成 24 年度～平成 29 年度）

常呂川流域文化遺産活用推進事業実行委員会 委員長（平成 24 年度）

北見市博物館群基本計画策定検討委員会委員（平成 24 年 10 月 26 日～平成 25 年 3 月 31 日）

北見市史跡整備専門委員（平成 25 年 3 月 29 日～3 月 31 日）

（國木田関連分）

新潟県津南町「農と縄文の体験実習館なじょもん」館外研究員（平成 23 年度～平成 24 年度）

（5）実習施設利用状況

①研究者の主な受入状況（前記（3）調査研究活動の項に記載したものは除く）

平成 24 年 6 月 岩瀬彬（明治大学黒耀石研究センター・客員研究員）「吉井沢遺跡の使用痕分析」

平成 24 年 6 月 崔聖国（東京大学大学院新領域創成科学研究科・博士課程）「大島 2 遺跡出土炭化材資料の調査」

平成 24 年 6 月 天野哲也（北海道大学総合博物館・研究員）、江田真毅（北海道大学総合博物館・講師）、アルトゥール・ハリンスキー（イルクーツク工科大学・教授）「常呂町周辺遺跡出土考古資料の調査研究」

平成 24 年 6 月 夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「トコロチャシ跡遺跡出土資料の調査」

平成 24 年 6 月 役重みゆき（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「北海道の細石刃石器群の調査」

平成 24 年 9 月 小池文人（横浜国立大学大学院環境情報研究院・教授）ほか 2 名「常呂町周辺における植物の種特性とシカ嗜好性調査」

- 平成 24 年 9 月 垣内彰悟（東京大学大学院新領域創成科学研究科・修士課程）「常呂町遺跡周辺の自然科学調査」
- 平成 24 年 9 月 島田義巳（大正大学文学部歴史学科文化財専攻・学部生）「常呂実習施設での博物館学研修」
- 平成 24 年 10 月 一木絵理（名古屋大学年代測定総合研究センター・研究機関研究員）、グエン・テイ・マイ・ホング（ベトナム社会科学アカデミー、考古学研究所・研究員）ほか 1 名「常呂町遺跡周辺の自然科学調査」
- 平成 24 年 10 月 夏木大吾（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「トコロチャシ跡遺跡出土資料の調査」
- 平成 24 年 10 月 役重みゆき（東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程）「北海道の細石刃石器群の調査」
- 平成 24 年 11 月 鹿島薫（九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門・准教授）ほか 1 名「常呂平野およびサロマ湖周辺低地における過去 1 万年間の環境変動の復元」
- 平成 24 年 11 月 杉浦章一郎（東京大学大学院人文社会系研究科・修士課程）「天塩川口遺跡の資料調査」
- 平成 24 年 12 月 ヤナ・ピスカレーバ（ロシア科学アカデミー極東支部歴史考古民族研究所・研究員）「北見市常呂町内出土オホーツク土器・擦文土器の研究」
- 平成 25 年 3 月 岩瀬彬（明治大学黒耀石研究センター・客員研究員）「吉井沢遺跡の使用痕分析」
- 平成 25 年 3 月 福田正宏（東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授）「常呂町周辺遺跡出土考古資料の調査研究」

②学生宿舎稼働状況（実習含む 単位：宿泊者 1 人あたり宿泊数の和）

4 月：0	5 月：0	6 月：20	7 月：102	8 月：113
9 月：157	10 月：73	11 月：33	12 月：3	1 月：0
2 月：8	3 月：36			
合計：545 名				

③北海文化研究常呂資料陳列館入館者数（入館者名簿に基づく人数）

4 月：28	5 月：31	6 月：40	7 月：85	8 月：106
9 月：102	10 月：30	11 月：18	12 月：4	1 月：0
2 月：3	3 月：3			
合計：450 名				

④資料貸出等

- 住総研レポート 2012 『すまいろん』 第 2 号（一般財団法人住総研、平成 24 年 7 月）
トコロチャシ跡遺跡オホーツク地点 8 号竪穴・9 号竪穴平面図（データ提供）

函館工業高等専門学校 中村和之教授（平成24年7月24日～平成25年4月6日）

ライトコロ川口遺跡出土 ガラス玉4点（非破壊分析）

井口直司『縄文土器ガイドブック』（新泉社、平成24年12月）

トコロ貝塚Dトレンチ出土北筒式土器 写真1点（リバーサル）

東京大学文学部作成 2013年文学部カレンダー

栄浦第二遺跡出土 クマ角器 写真1点（リバーサル）

網走市立郷土博物館分館 モヨロ貝塚館 常設展示（平成25年5月より一般公開予定）

モヨロ貝塚発掘調査 ガラス乾板スキャンデータ（データ提供）

（6）組織

（北海文化研究常呂実習施設）

北海文化研究常呂実習施設長 中地義和（併任 研究科長・学部長）

北海文化研究常呂実習施設運営委員会 委員6名（委員長・副委員長各1名、委員4名）

准教授 熊木俊朗

助教 國木田大

有期雇用職員 2名

（北海文化研究常呂資料陳列館）

館長 中地義和（併任 研究科長・学部長）

（文責：熊木俊朗）